古河市こども計画策定及びPFS事業化検討支援業務

アンケート調査報告書

概要版

令和６年７月

古　河　市

目次

はじめに 1
1.　調査の概要 2
1.1. 調査の目的 2
1.2. 調査対象 2
1.3. 実施方法 2
1.4. 回答状況 3
2.　こども自身へのアンケート調査結果 4
2.1. 家庭環境 4
2.2. 生活の状況 6
2.3. 悩みや困りごと・相談相手 7
2.4. 学習・進路の状況 10
2.5. 居場所の状況 12
2.6. 自己認識 14
3.　保護者へのアンケート調査結果 19
3.1. 家庭環境 19
3.2. 生活の状況 20
3.3. 子育ての状況 21
3.4. 精神的なストレスの状況 23
4.　アンケート調査結果に関する考察 27
4.1. 古河市のこどもの状況について 27
4.2. 古河市のこどもの保護者の状況について 28
4.3. 今後のこども施策に向けて 28
添付資料 29
こども自身用アンケート項目一覧 29
保護者用アンケート項目一覧 30

はじめに

本書は、「古河市こども計画策定及びPFS事業化支援業務」の中で実施した市民アンケートの集計・分析について、結果の概要を取りまとめたものである。（なお、アンケート調査票の作成、配布、回収は古河市が実施した。）

本アンケート調査は、令和７年度から令和11年度までを計画期間とする「古河市こども計画」の策定にあたり、こども・若者自身の意見を反映させること、また、市民の子育てに関する生活実態や意見等を把握することを目的として実施したものであり、小学５年生、中学２年生、高校２年生、未就学児保護者、小学生保護者を対象とした５種類のアンケートから構成されている。また、本アンケート調査の結果は、本業務の中で実施するこどもの居場所に関するPFS/SIB事業の検討にも活用する予定である。

本概要版では、古河市のこども及び保護者の置かれている状況を概観するとともに、こどもについては自己認識、保護者については主に精神的なストレス等の状況について分析を行った結果をまとめている。主にこども施策に携わる庁内外の関係者に向けて、古河市こども計画の策定及び居場所に関するPFS/SIB事業の検討を含め、今後のこども計画の推進に活用いただくことを想定している。

なお、巻末に添付しているアンケート項目のうち、本概要版に掲載していないものについては、報告書本編を参照いただきたい。

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

令和７年度から令和 11 年度までを計画期間とする「古河市こども計画」の策定にあたり、こども・若者自身の意見を反映させるため、また、市民の子育てに関する生活実態や意見等を把握するため、古河市内の小中高校に通う児童・生徒及び保護者に対して、アンケート調査を実施した。

なお、アンケート結果は、古河市が実施を予定しているこどもの居場所に関する PFS/SIB 事業の検討においても活用することを予定している。

1.2. 調査対象

アンケート調査は、こども自身用３種類及び保護者用２種類の計５種類からなり、それぞれの対象者及び対象人数は以下のとおりである。

図表 1-1　アンケート対象者及び対象人数

アンケート種別	対象者	人数
小学５年生	古河市内の小学校（23 校）に在学している全児童	1,118 人
中学２年生	古河市内の中学校等※（10 校）に在学している全生徒	1,232 人
高校２年生	古河市内の高等学校等※（６校）に在学している全生徒	970 人
未就学児保護者	古河市内の０～５歳の児童がいる世帯から無作為抽出	1,000 人
小学生保護者	古河市内の６～11 歳の児童がいる世帯から無作為抽出	1,000 人

※中等教育学校を含む。

1.3. 実施方法

各アンケートは、2024 年２月 16 日（金）から３月 17 日（日）まで、オンラインフォームにより実施した。

こども自身用アンケートは、市内の小学校・中学校・高等学校等の協力を得て、回答画面にアクセスするための QR コードを掲載した通知文を学校経由で紙媒体で配布し、学校から貸与されているタブレット端末や私用のスマートフォン等を用いて回答してもらった。なお、一部の学校では、授業の中で本アンケートに回答する時間が設けられた一方で、通知文の配布のみだった学校もあり、各学校により対応方法が異なっている。

保護者用アンケートは、回答画面にアクセスするための QR コードを記載した通知文を、本人（こども）名を記載して保護者宛に郵送し、自宅のスマートフォンやパソコン等から回答してもらった。

1.4. 回答状況

各アンケートの回答状況は以下のとおりであった。

図表 1-2　回答人数及び回答率

アンケート種別	対象人数	回答人数	回答率
小学５年生	1,118 人	992	88.7%
中学２年生	1,232 人	950	77.1%
高校２年生	970 人	501	51.6%
未就学児保護者	1,000 人	399	39.9%
小学生保護者	1,000 人	443	44.3%

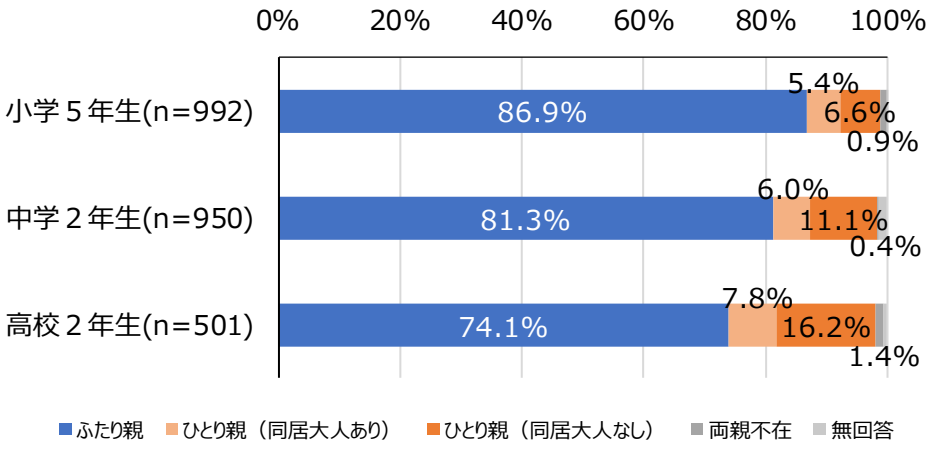
2.　こども自身へのアンケート調査結果

2.1.　家庭環境

2.1.1.　親の状況

年齢が上がるほど、ひとり親家庭、両親不在家庭の割合が高くなっており、小学５年生では 12.9%、中学２年生では 17.5%、高校２年生では 25.4%となっている。（※こども自身へのアンケートでは同居家族を尋ねており、配偶関係とは異なる。）

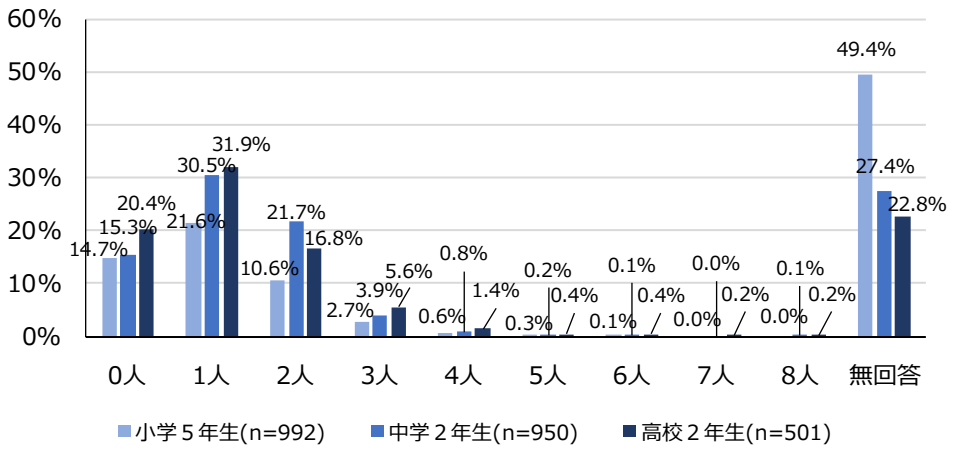
図表 2-1　親の状況



2.1.2.　きょうだい数

自分自身を除くきょうだい数は１人が最も多く、無回答を除く平均は、小学５年生で 1.10 人、中学２年生で 1.26 人、高校２年生で 1.23 人であった。

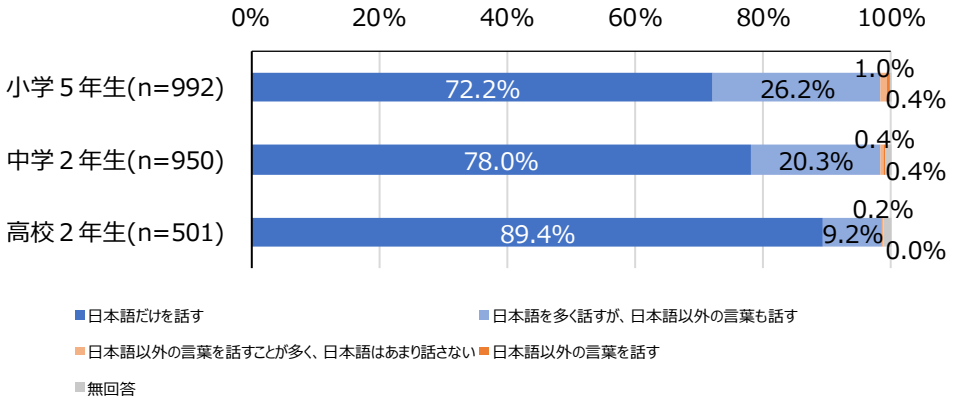
図表 2-2　きょうだい数



2.1.3. 日常使用言語

年齢が低いほど、外国語を中心に使う児童・生徒の割合が高く、小学５年生では 1.4%、中学２年生では 0.8%、高校２年生では 0.2%であった。

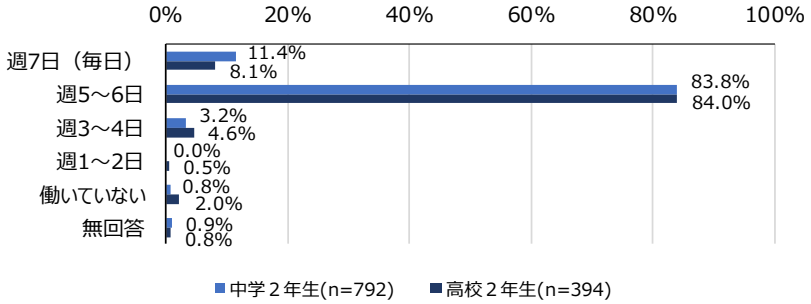
図表 2-3　日常使用言語



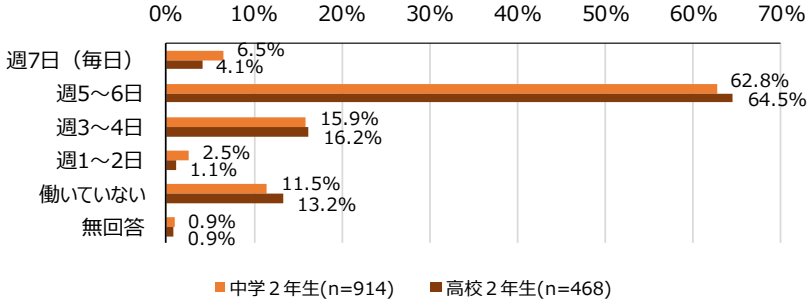
2.1.4. 保護者の就労状況

父親については、中学２年生の 95.2%、高校２年生の 92.1%が、週５～６日以上働いていると回答した。母親については、週 5～6 日以上働いていると回答した割合は、中学２年生で 69.3%、高校２年生で 68.6%であった。働いていない母親は、中学２年生で 11.5%、高校生で 13.2%であった。(※それぞれ、同居家族を尋ねた設問で、父親、母親を選択した生徒を母数とした割合。)

図表 2-4　父親の就労状況



図表 2-5　母親の就労状況

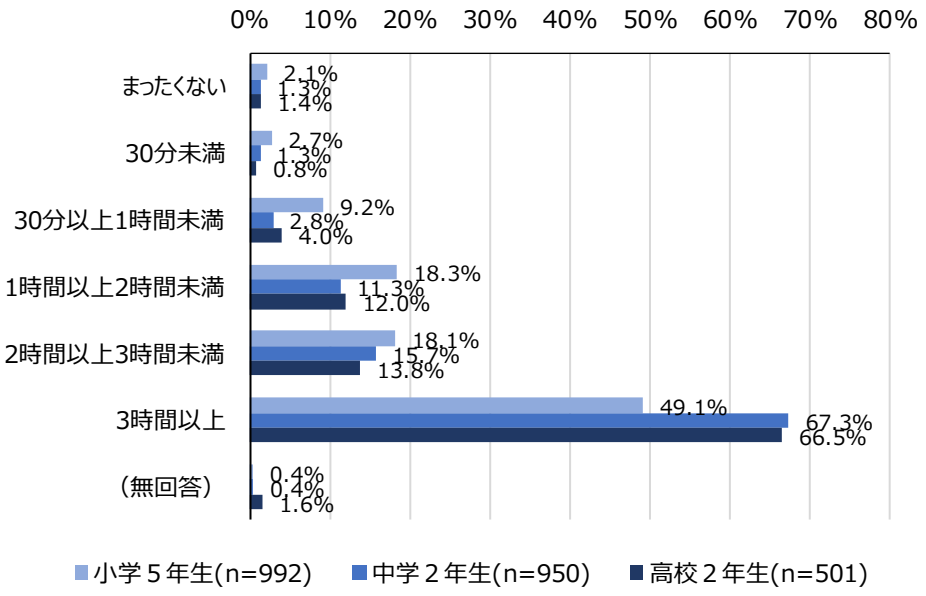


2.2.　生活の状況

2.2.1.　自分のために使える時間

いずれの年齢でも、３時間以上と回答した児童・生徒の割合が最も高く、小学５年生で49.1%、中学２年生で67.3%、高校２年生で66.5%となっている。

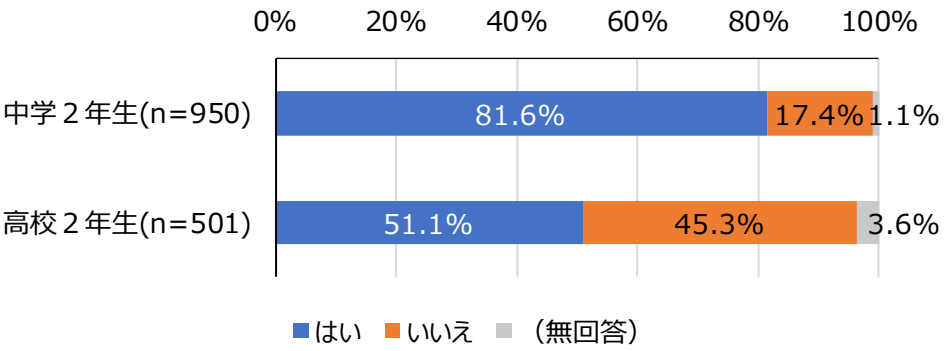
図表 2-6　自分のために使える時間



2.2.2.　部活動への参加状況

学校の部活動に参加している生徒の割合は、中学２年生で81.6%、高校２年生で51.1%であった。

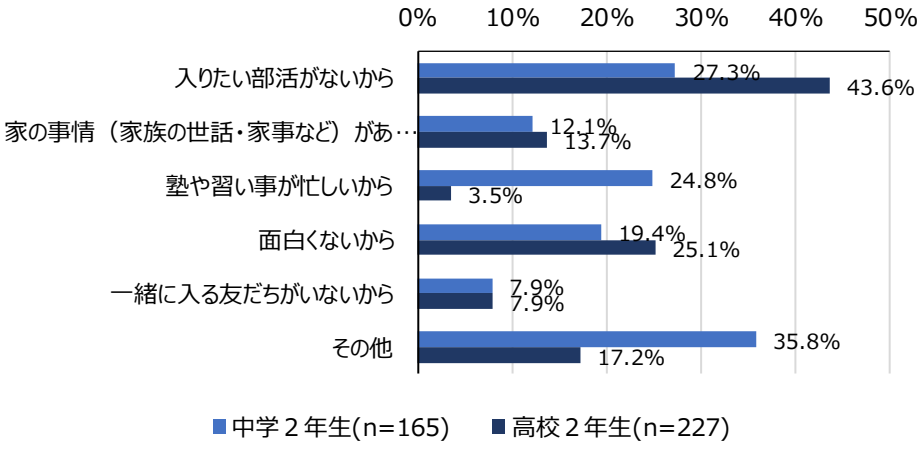
図表 2-7　部活動への参加状況



部活動に参加していないと回答した生徒にその理由を尋ねたところ、中学２年生では「その他」が最も多く、内容はクラブチームに所属しているから、以前は参加していたが退部し

たから等であった。次いで、「入りたい部活がないから」が多かった。高校２年生では「入りたい部活がないから」が最も多く、次いで「面白くないから」となっている。

図表 2-8　部活動に参加していない理由

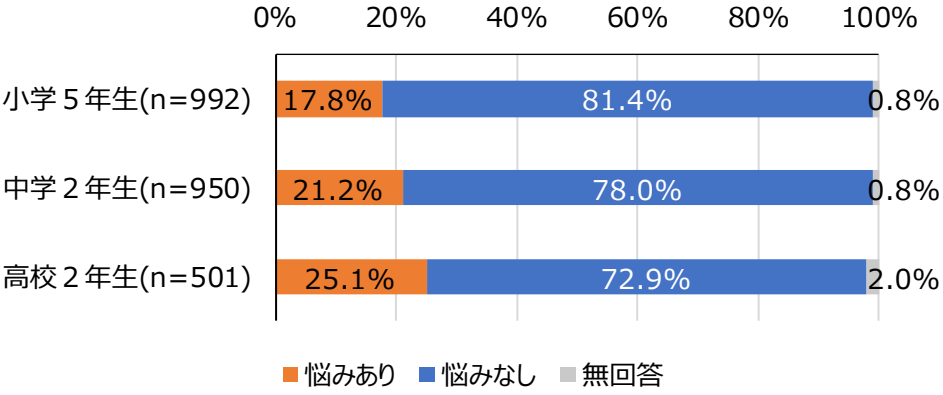


2.3.　悩みや困りごと・相談相手

2.3.1.　悩みや困りごとの有無

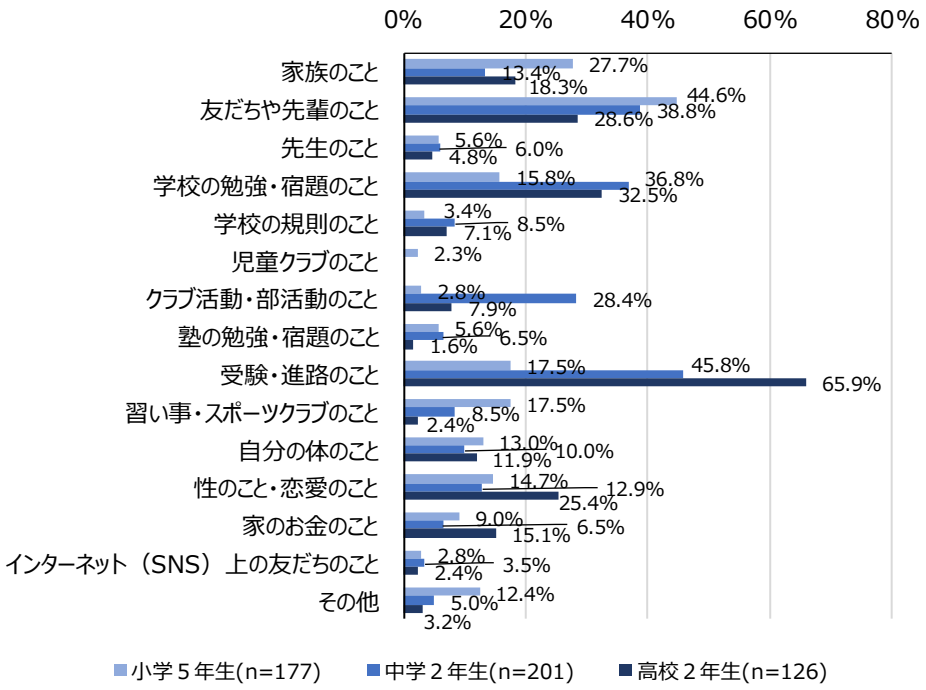
年齢が上がるほど、悩みや困りごとがあると回答した割合が高く、小学５年生で 17.8%、中学２年生で 21.2%、高校２年生で 25.1%となっている。

図表 2-9　悩みや困りごとの有無



悩みや困りごとがあると回答した児童・生徒にその内容を尋ねたところ、小学５年生は「友だちや先輩のこと」が、中学２年生、高校２年生では「受験・進路のこと」が最も多くなっている。

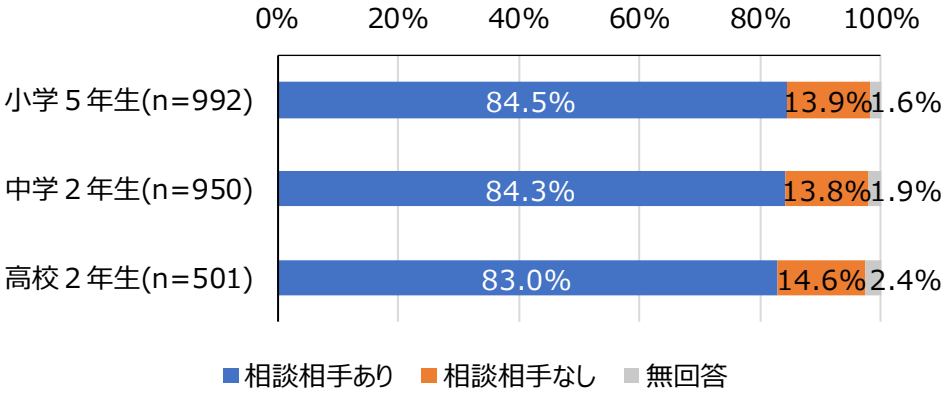
図表 2-10　悩みや困りごとの内容



2.3.2. 相談相手の有無

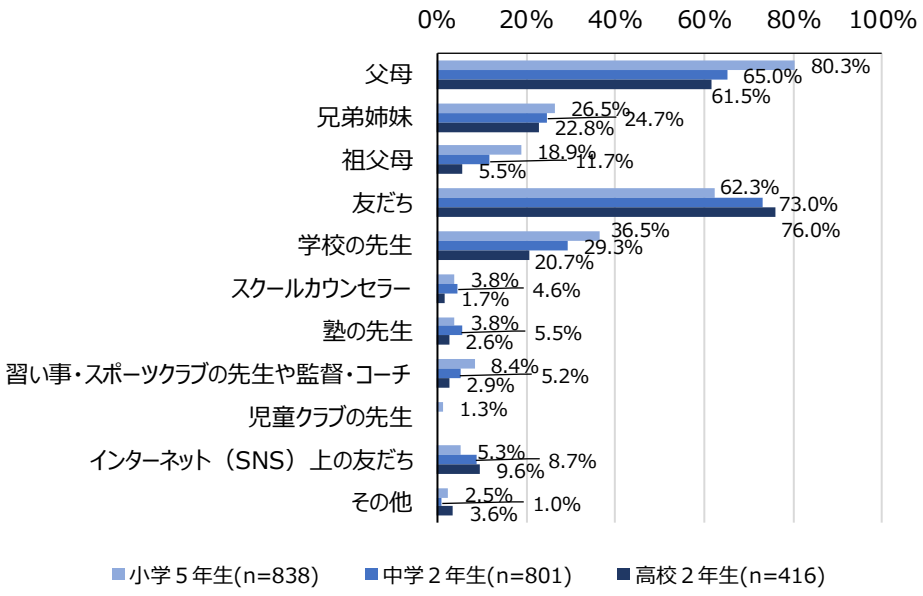
いずれの年代でも、８割を超える児童・生徒が悩みや困りごとを相談できる相手がいると回答している。

図表 2-11　相談相手の有無



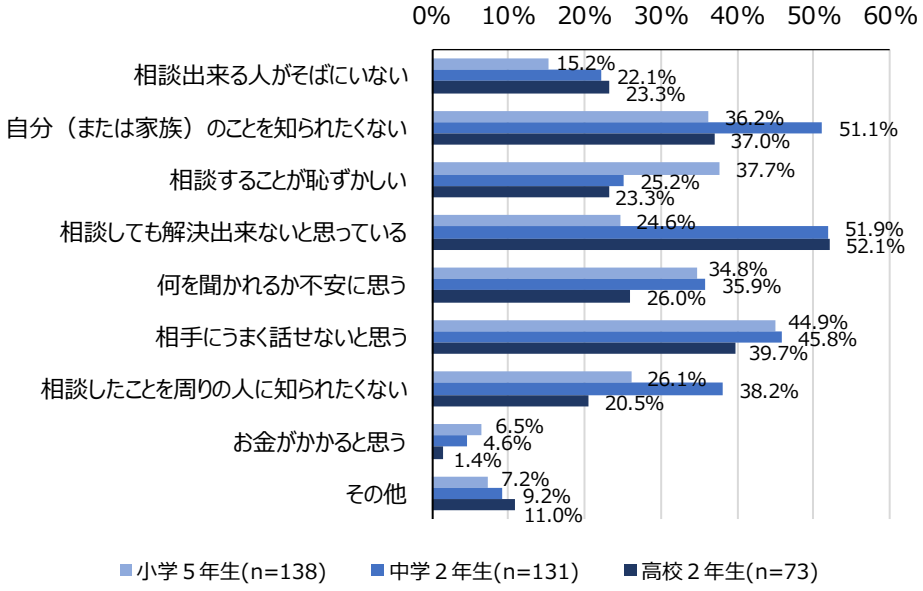
相談相手がいると回答した児童・生徒にその相手を尋ねたところ、いずれの年代も「父母」「友だち」「学校の先生」「兄弟姉妹」が多くなっているが、年齢が上がるほど家族（父母・兄弟姉妹・祖父母）や学校の先生と回答した割合が低くなり、反対に友だちやインターネット（SNS）上の友だちと回答した割合が高くなっている。

図表 2-12　相談相手



相談相手がいないと回答した児童・生徒にその理由を尋ねたところ、小学５年生では「相手にうまく話せないと思う」「相談することが恥ずかしい」「自分（または家族）のことを知られたくない」が多い。中学２年生、高校２年生では「相談しても解決できないと思っている」と回答した割合が小学５年生よりも高くなっている。

図表 2-13　相談できない理由

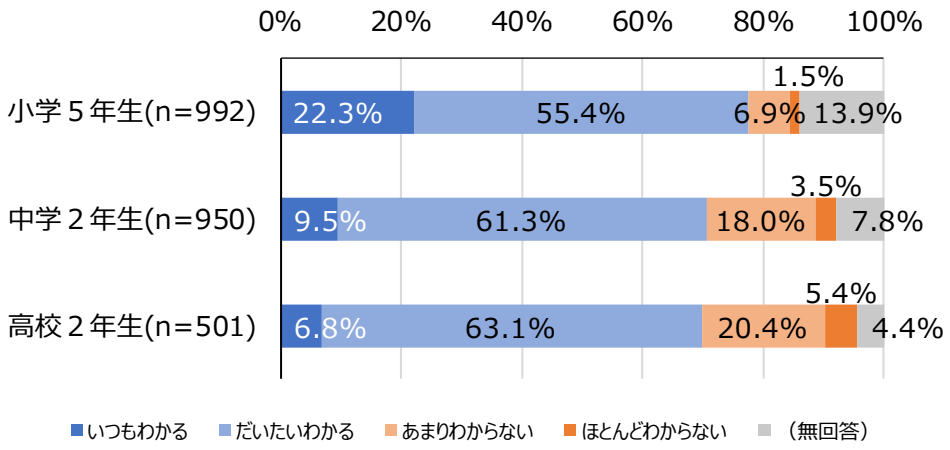


2.4.　学習・進路の状況

2.4.1.　学校の授業の理解度

年齢が上がるほど、学校の授業が「いつもわかる」または「だいたいわかる」と回答した児童・生徒の割合が低くなっている。

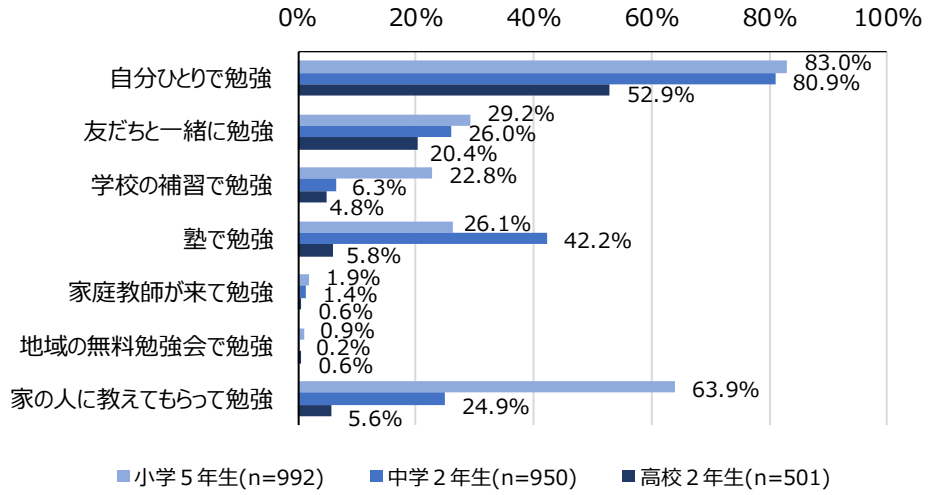
図表 2-14　学校の授業の理解度



2.4.2.　学校の授業以外の勉強方法

いずれの年代も、学校の授業以外の勉強方法では「自分ひとりで勉強する」と回答した児童・生徒の割合が最も多い。年齢が上がるほど、「友だちと一緒に勉強する」「学校の補習で勉強する」「家の人に教えてもらって勉強する」と回答した割合が低くなっている。

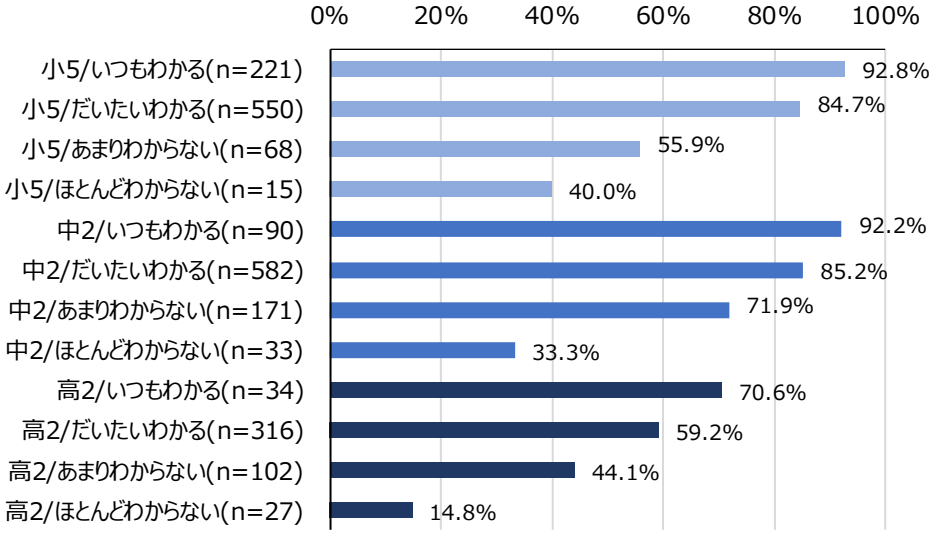
図表 2-15　学校の授業以外の勉強方法



2.4.3. 学校の授業の理解度と授業以外の勉強方法の関係

いずれの年代においても、学校の授業の理解度が低いほど、学校の授業以外にひとりで勉強すると回答した児童・生徒の割合が低くなっている。

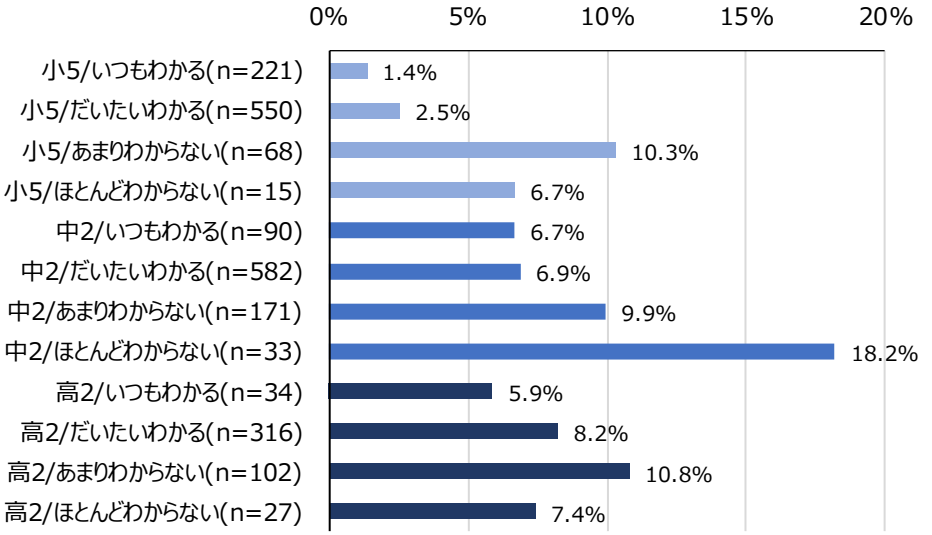
図表 2-16　学校の授業の理解度別のひとりで勉強すると回答した児童・生徒の割合



2.4.4. 学校の授業の理解度と勉強に関する悩みの関係

学校の授業が「あまりわからない」「ほとんどわからない」と回答した児童・生徒は、それ以外の児童・生徒と比較して、学校の勉強・宿題に関する悩みがあると回答した割合が高い傾向が見られる。

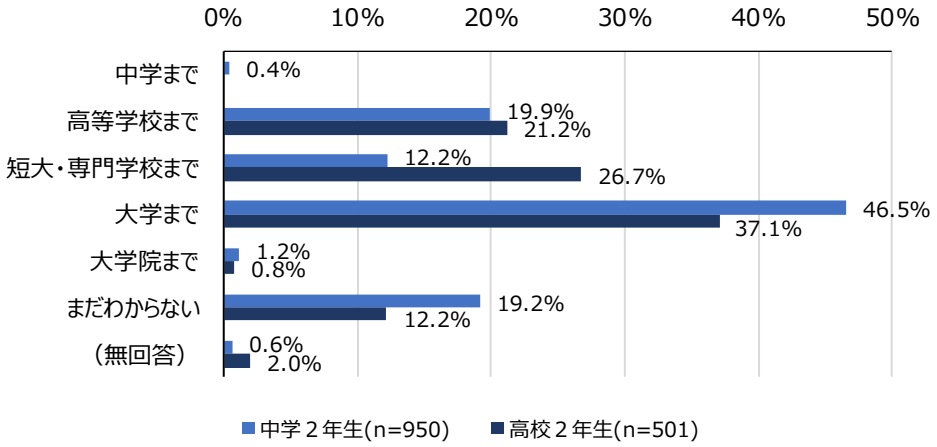
図表 2-17　学校の授業の理解度別の学校の勉強・宿題の悩みを有する児童・生徒の割合



2.4.5. 将来の進学希望

中学２年生では、「大学まで」と回答した生徒の割合が 46.5%と最も高く、次いで「高等学校まで」が 19.9%となっている。中学２年生の 19.2%が「まだわからない」と回答している一方、高校２年生では 12.2%に減少しており、「大学まで」が 37.%、「短大・専門学校まで」が 26.7%、「高等学校まで」が 21.2%となっている。

図表 2-18　将来の進学希望

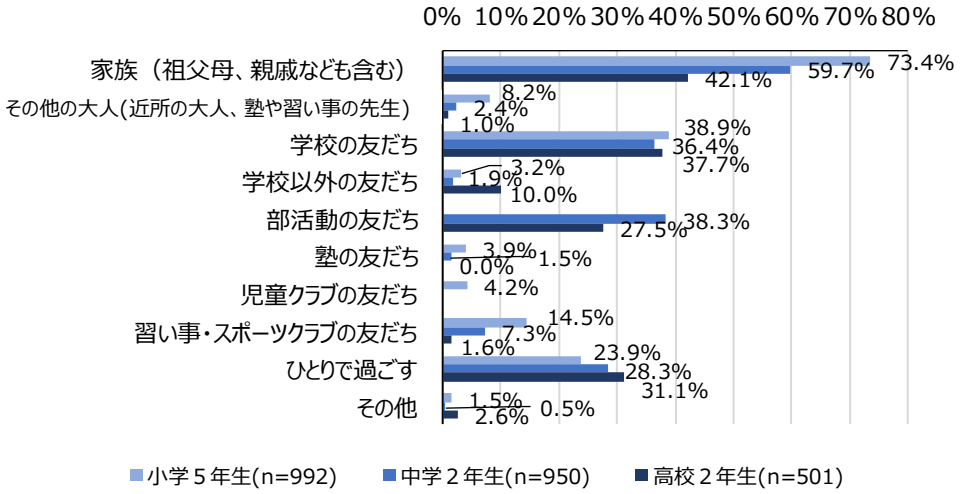


2.5.　居場所の状況

2.5.1. 放課後を一緒に過ごす相手

いずれの年代も、「家族（祖父母、親戚なども含む）」「学校の友だち」「ひとりで過ごす」と回答した児童・生徒の割合が高いが、年齢が上がるほど「家族（祖父母、親戚なども含む）」が減り、「ひとりで過ごす」が増える傾向が見られる。また、中学２年生、高校２年生では「部活動の友だち」と回答した生徒も多い。

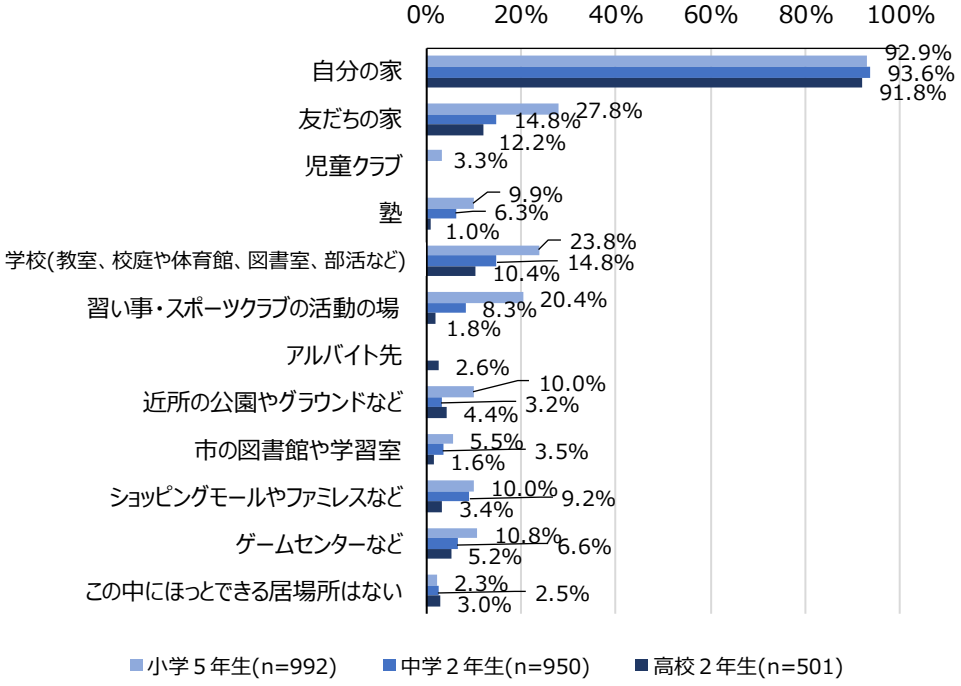
図表 2-19　放課後を一緒に過ごす相手



2.5.2. ほっとできる居場所

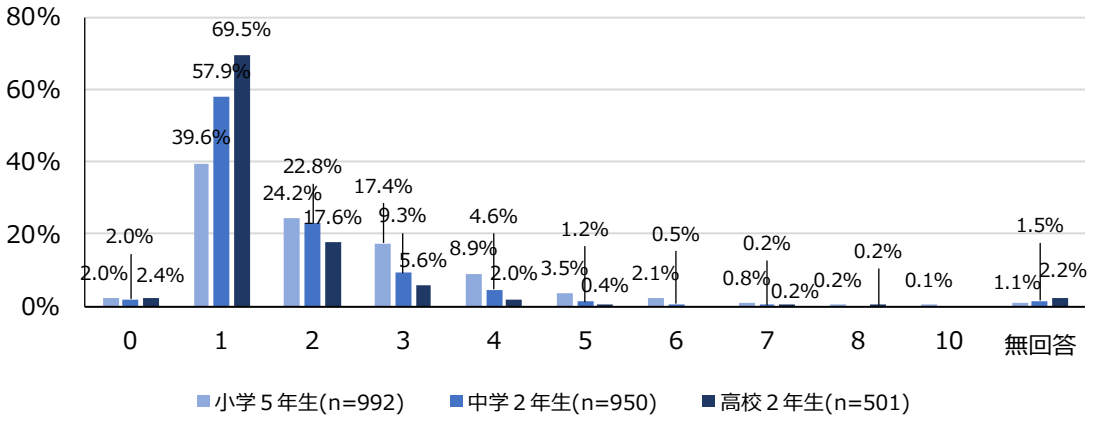
いずれの年代も、ほっとできる居場所として「自分の家」と回答した児童・生徒の割合が最も高い。「友だちの家」「学校（教室、校庭や体育館、図書室、部活など）」「習い事・スポーツクラブの活動の場」「塾」等は、年齢が上がるほど、ほっとできる居場所であると回答した割合が低くなっている。

図表 2-20　ほっとできる居場所



ほっとできる居場所の数は、1 か所を選択した児童・生徒が最も多く、無回答を除く平均は小学 5 年生が 2.17 か所、中学 2 年生が 1.63 か所、高校 2 年生が 1.37 か所と、年齢が上がるほど少なくなっている。

図表 2-21　ほっとできる居場所の数

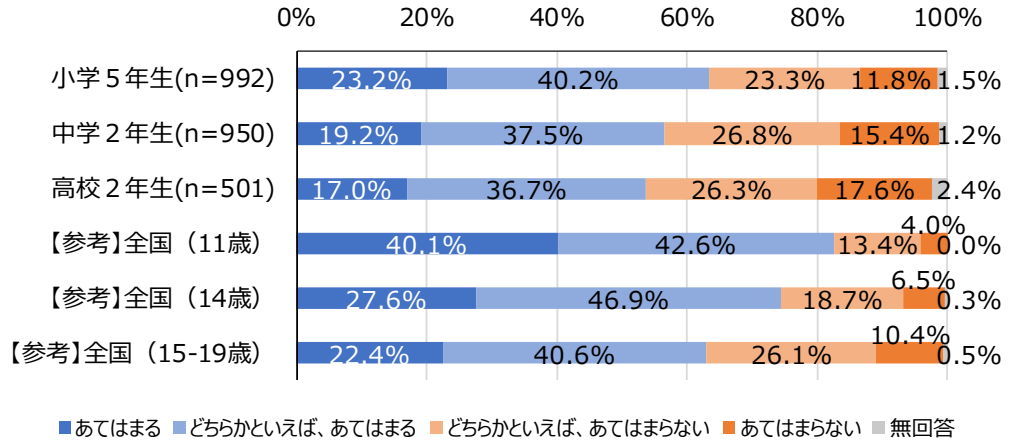


2.6.　自己認識

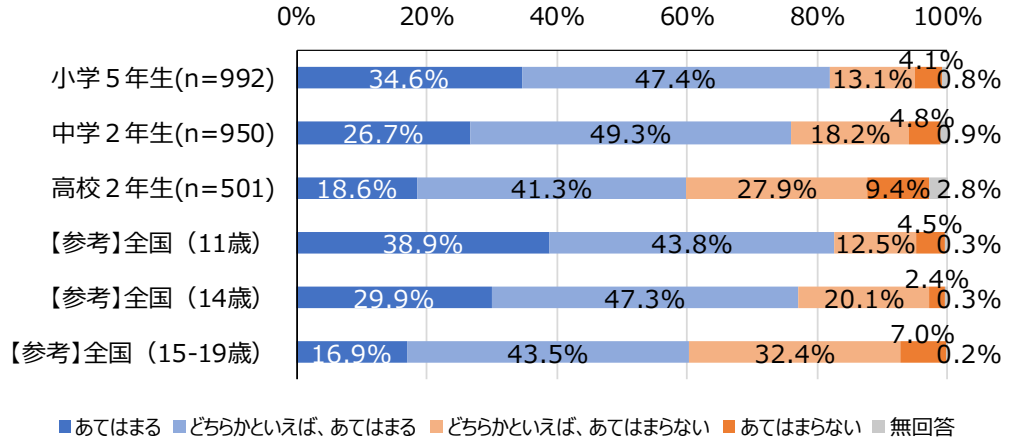
2.6.1. 各年代における自己認識の状況

いずれの項目においても、年齢が上がるほど、ネガティブな回答をする児童・生徒の割合が増加する。また、自己肯定感、自己有用感、将来への希望については、全国よりも古河市の方が低い傾向にある。[1]

図表 2-22　自己肯定感（今の自分が好き）

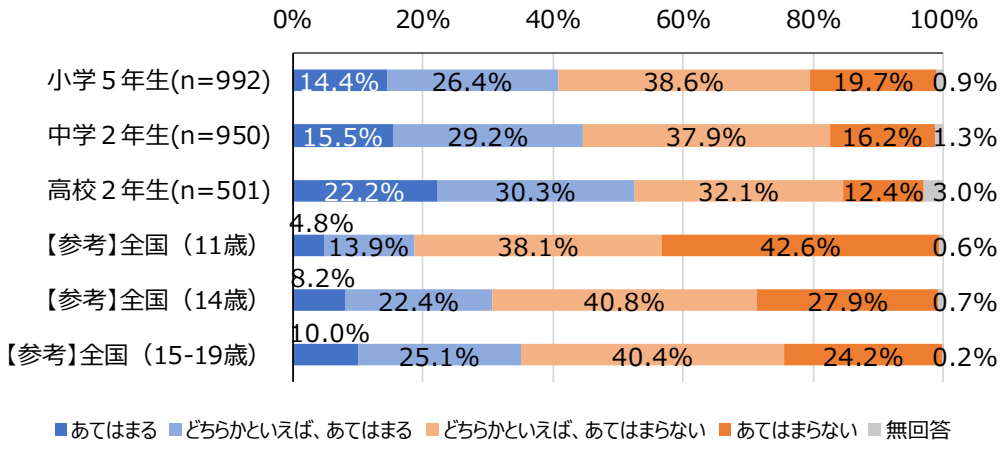


図表 2-23　チャレンジ精神（うまくいくかわからないことにも、頑張って取り組む）

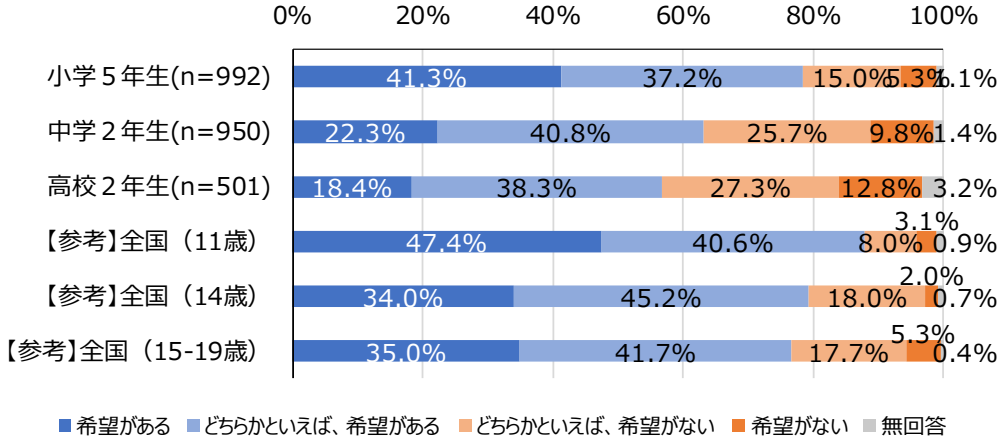


[1] 全国のデータは、内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査　（令和４年度）」（令和５年３月）より、11 歳、14 歳、15-19 歳の回答を参照している。なお、全国との比較においては、内閣府調査と本アンケートで、アンケート回答した層に差がある可能性に留意が必要である。詳細は、本概要版の「4. アンケート調査結果に関する考察」（p. 27）参照。

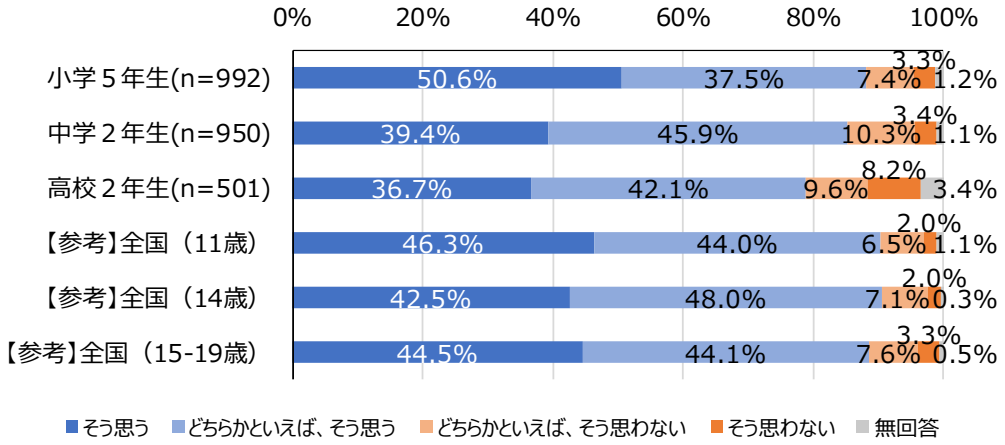
図表 2-24　自己有用感（自分は役に立たないと強く感じる）



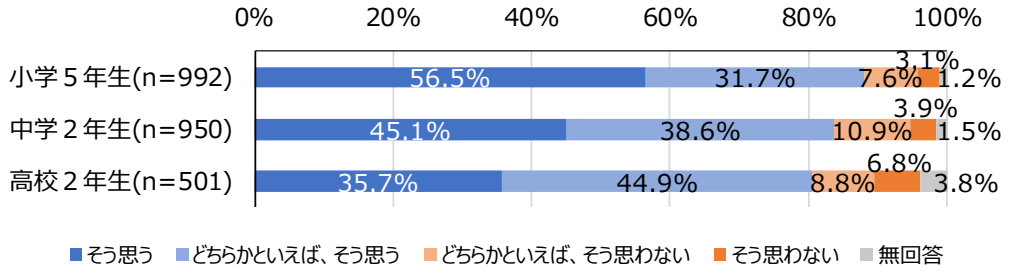
図表 2-25　将来への希望



図表 2-26　社会貢献意欲（社会のために役立つことをしたいと思う）



図表 2-27　今の充実感（今の生活が充実している）

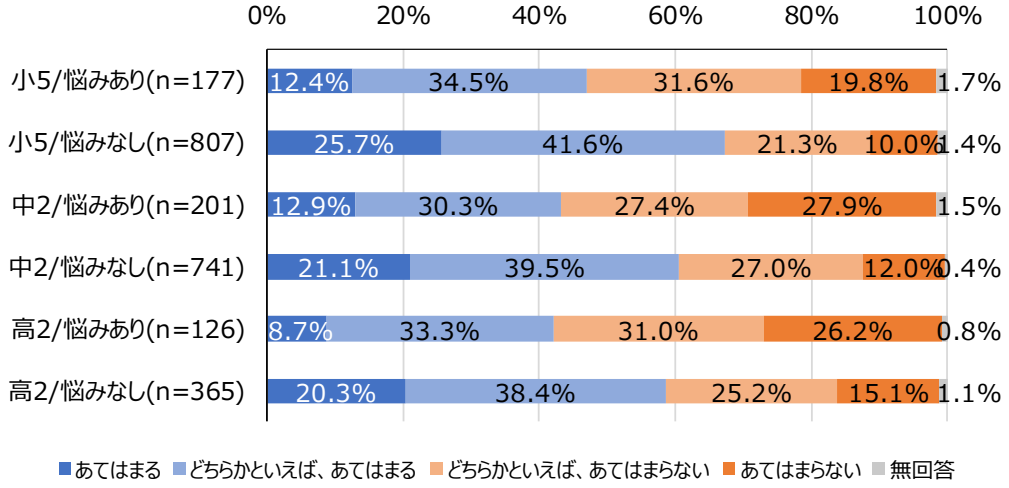


2.6.2. 悩みや困りごと、相談相手の有無と自己肯定感の関係

自己認識に関する６つの設問のうち、ここでは自己肯定感（今の自分が好き）に着目し、悩みや困りごと、相談相手の有無との関係を分析した。

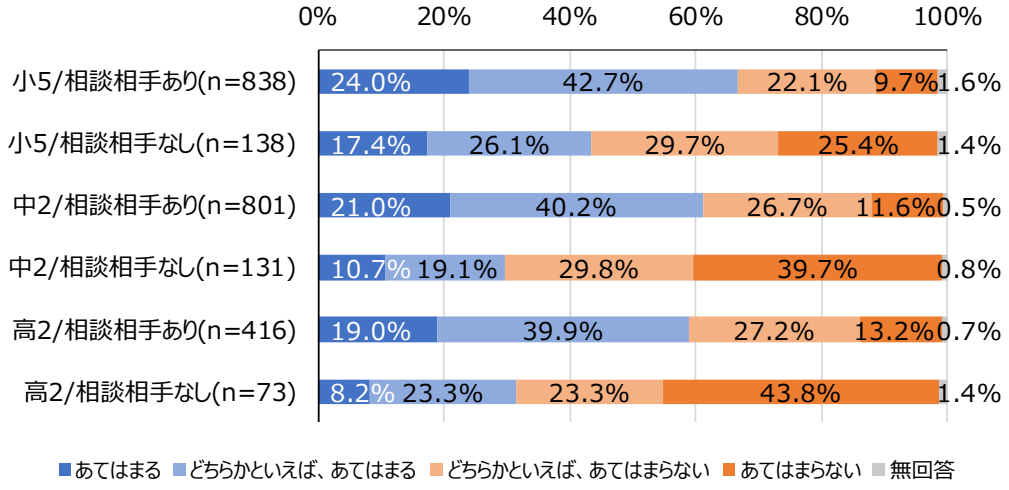
いずれの年代においても、「悩みや困りごとがある」と回答した児童・生徒の方が、「悩みや困りごとがない」と回答した児童・生徒よりも、自己肯定感が低い傾向が見られる。

図表 2-28　悩みや困りごとの有無と自己肯定感（今の自分が好き）



同様に、「相談相手がいない」と回答した児童・生徒の方が、「相談相手がいる」と回答した児童・生徒よりも、自己肯定感が低い傾向が見られる。

図表 2-29　相談相手の有無と自己肯定感（今の自分が好き）

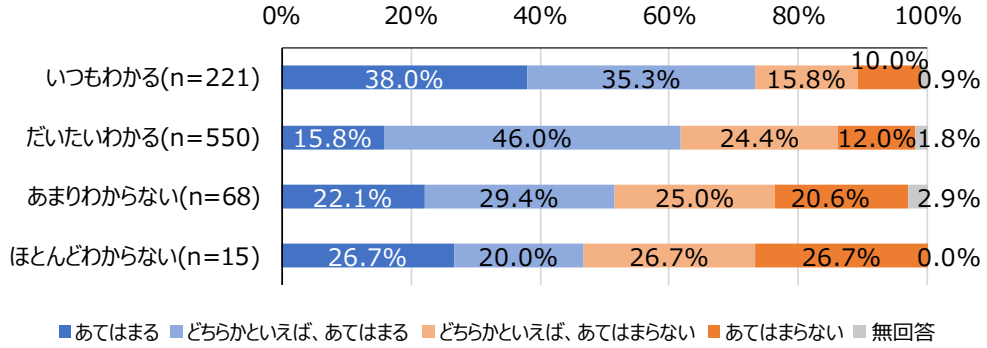


2.6.3. 授業の理解度と自己肯定感の関係

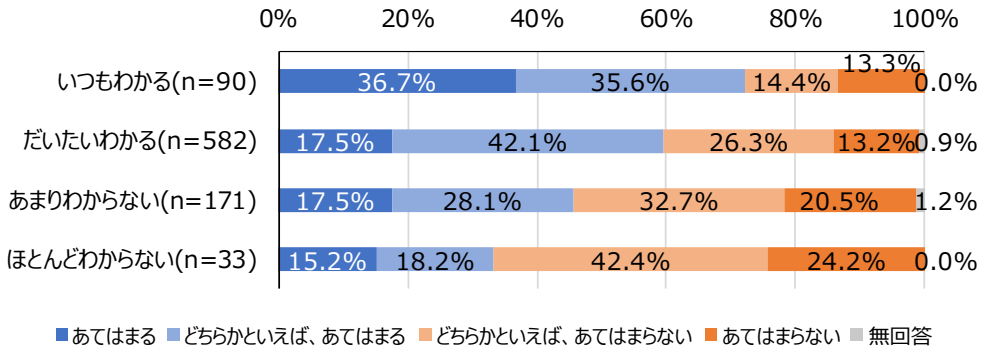
小学５年生、中学２年生においては、学校の授業がわからないと回答した児童・生徒ほど、自己肯定感が低い傾向が見られる。

なお、高校２年生では明確な傾向は見られないが、学校により授業の難易度が異なることが一因と予想される。（例：進学校で「学校の授業が難しい」と感じている生徒が、必ずしもそれに起因して自己肯定感が低下しているとは限らない。）

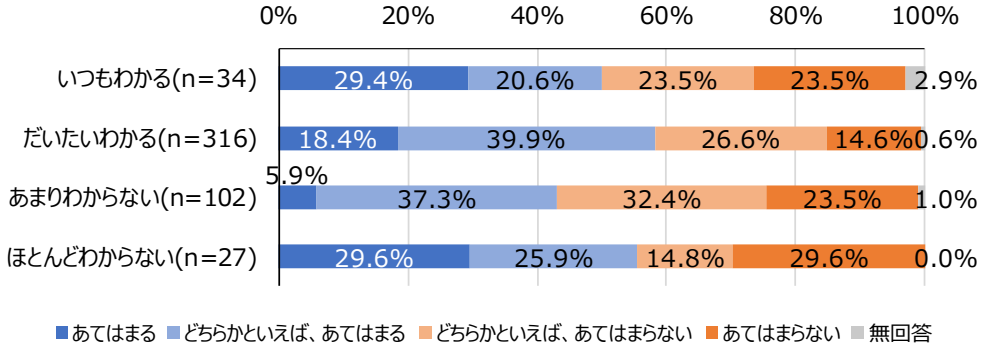
図表 2-30　学校の授業の理解度と自己肯定感（今の自分が好き）（小学５年生）



図表 2-31　学校の授業の理解度と自己肯定感（今の自分が好き）（中学２年生）



図表 2-32　学校の授業の理解度と自己肯定感（今の自分が好き）（高校２年生）

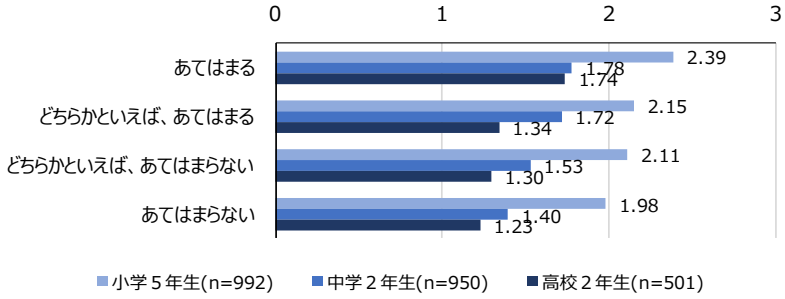


2.6.4. 自己肯定感とほっとできる居場所の数の関係

いずれの年代においても、自己肯定感が高い児童・生徒（「今の自分が好き」について、「あてはまる」と回答した児童・生徒）ほど、ほっとできる居場所の数が多くなっている。

なお、集計・分析の方法は異なるものの、内閣府の「子供・若者インデックスボード」においても、安心できる場所の数の多さと自己認識の前向きさは概ね相関していることが指摘されており、古河市においても同様の傾向が見られた。[2]

図表 2-33　自己肯定感（今の自分が好き）とほっとできる居場所の数



[2] 内閣府「子供・若者インデックスボード ver.4.0」を参照。（現在はこども家庭庁所管）

3.　保護者へのアンケート調査結果

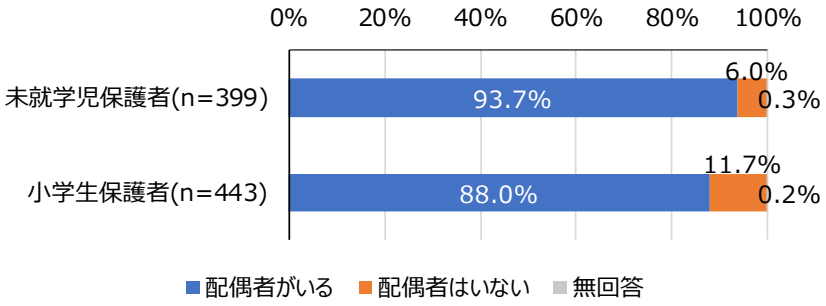
3.1.　家庭環境

3.1.1.　配偶関係

未就学児保護者の 6.0%、小学生保護者の 11.7%が、配偶者がいないと回答した。

なお、未就学児保護者、小学生保護者ともに、回答者の約 9 割が母親であり、配偶者がいない世帯の大部分が母子家庭と予想される。

図表 3-1　保護者の配偶関係

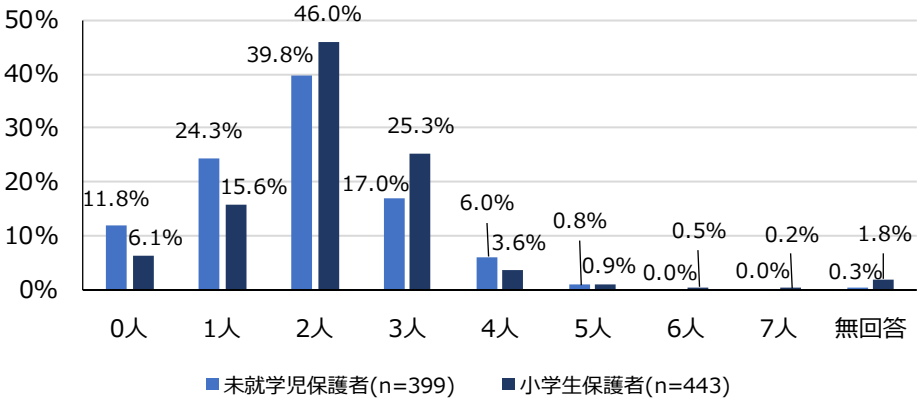


3.1.2.　きょうだい数

未就学児保護者、小学生保護者ともに、きょうだい数は 2 人が最も多く、無回答を除く平均は、未就学児保護者で 1.83 人、小学生保護者で 2.11 人であった。

なお、設問では宛名のこどもを含む人数を尋ねており、0 人は誤回答と予想される。

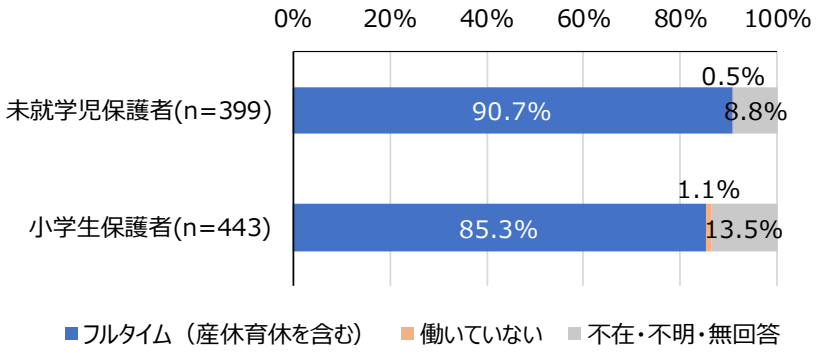
図表 3-2　きょうだい数



3.1.3.　就労状況

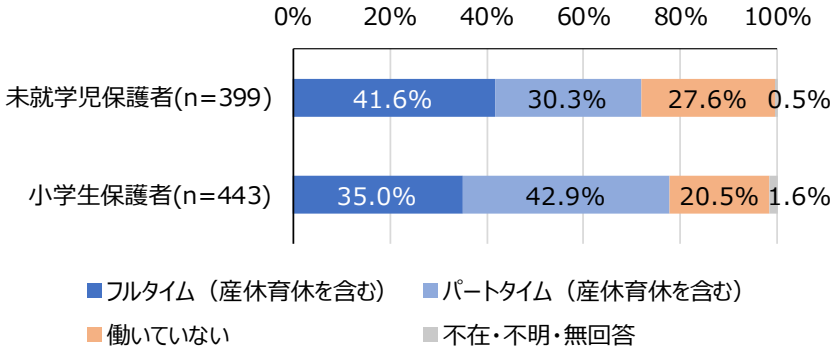
父親については、未就学児の父親の 90.7%、小学生の父親の 85.3%がフルタイムで就労しており、パートタイムで働いている父親はいなかった。なお、不在・不明・無回答には、母親のみのひとり親家庭を含む。

図表 3-3　父親の就労状況



母親については、フルタイムとパートタイムを合わせ、未就学児の母親の 71.9%、小学生の母親の 77.9%が働いている。（現在産休・育休・介護休業中を含む。）

図表 3-4　母親の就労状況

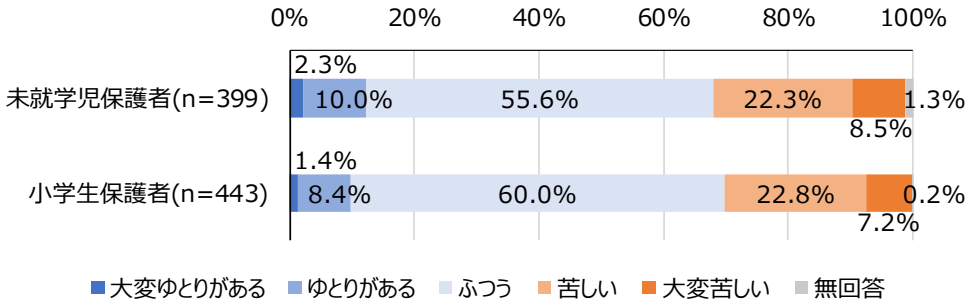


3.2.　生活の状況

3.2.1.　暮らしの状況

未就学児保護者、小学生保護者ともに、半数以上が暮らしの状況について「ふつう」と回答している。「苦しい」または「大変苦しい」と回答した保護者の割合は、未就学児で 30.8%、小学生で 30.0%となっている。

図表 3-5　暮らしの状況

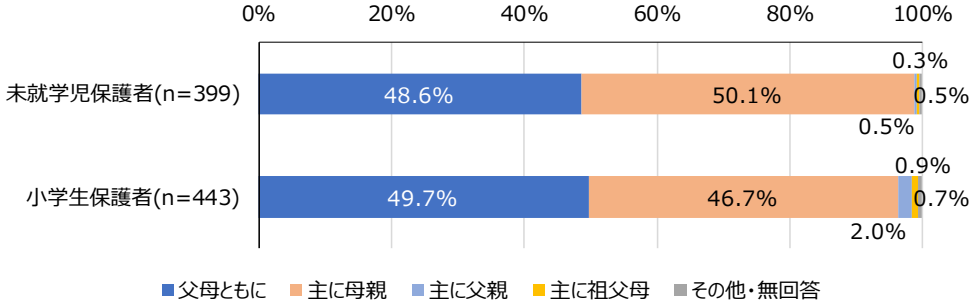


3.3.　子育ての状況

3.3.1. 主に育児をしている人

未就学児保護者、小学生保護者ともに、「父母ともに」「主に母親」がそれぞれ約半数ずつとなっており、ほとんどの家庭で母親が育児を担っている一方で、「主に父親」を加えても、父親が主な育児者となっている家庭は半分程度に留まっていることが伺える。

図表 3-6　主に育児をしている人

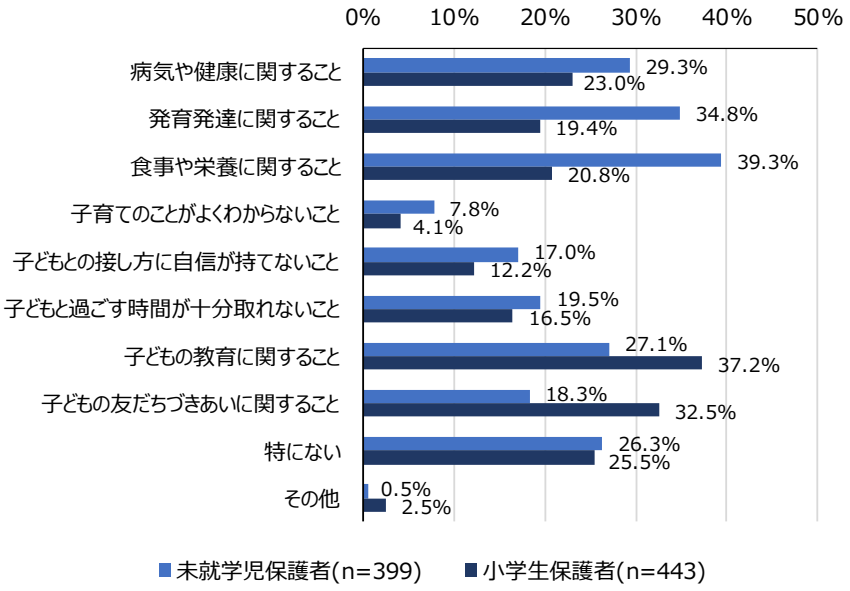


3.3.2. 子育てに関する悩み（子どものこと）

「特にない」と回答した保護者は、未就学児では 26.3%、小学生では 25.5%と、いずれも約４分の１であった。

悩みの内容は、未就学児保護者では「食事や栄養に関すること」「発育発達に関すること」「病気や健康に関すること」の順に多く、小学生保護者では「子どもの教育に関すること」「子どもの友だち付き合いに関すること」「病気や健康に関すること」の順に多い。

図表 3-7　子どもに関する悩み

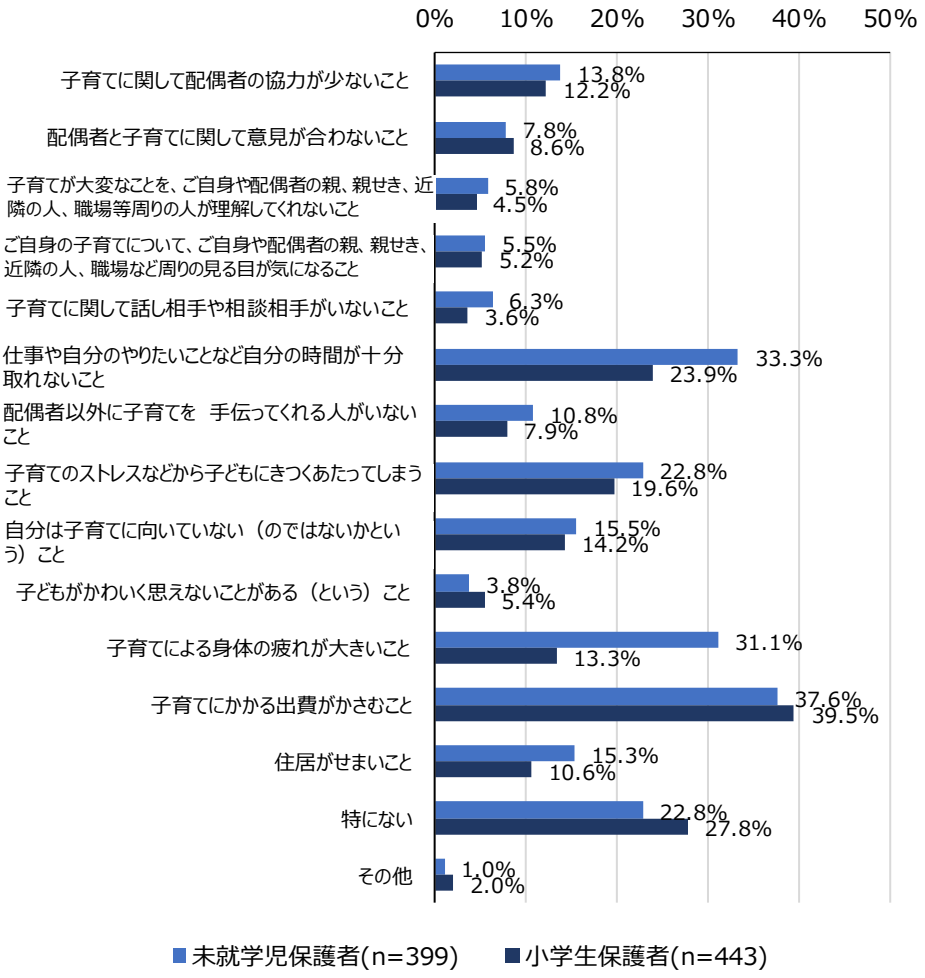


3.3.3. 子育てに関する悩み（保護者自身のこと）

「特にない」と回答した保護者は、未就学児では 22.8%、小学生では 27.8%であった。

悩みの内容は、未就学児保護者、小学生保護者ともに、「子育てにかかる出費がかさむこと」が最多で、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が続く。その他、未就学児では「子育てによる身体の疲れが大きいこと」、小学生では「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」が多い。

図表 3-8　保護者自身の悩み



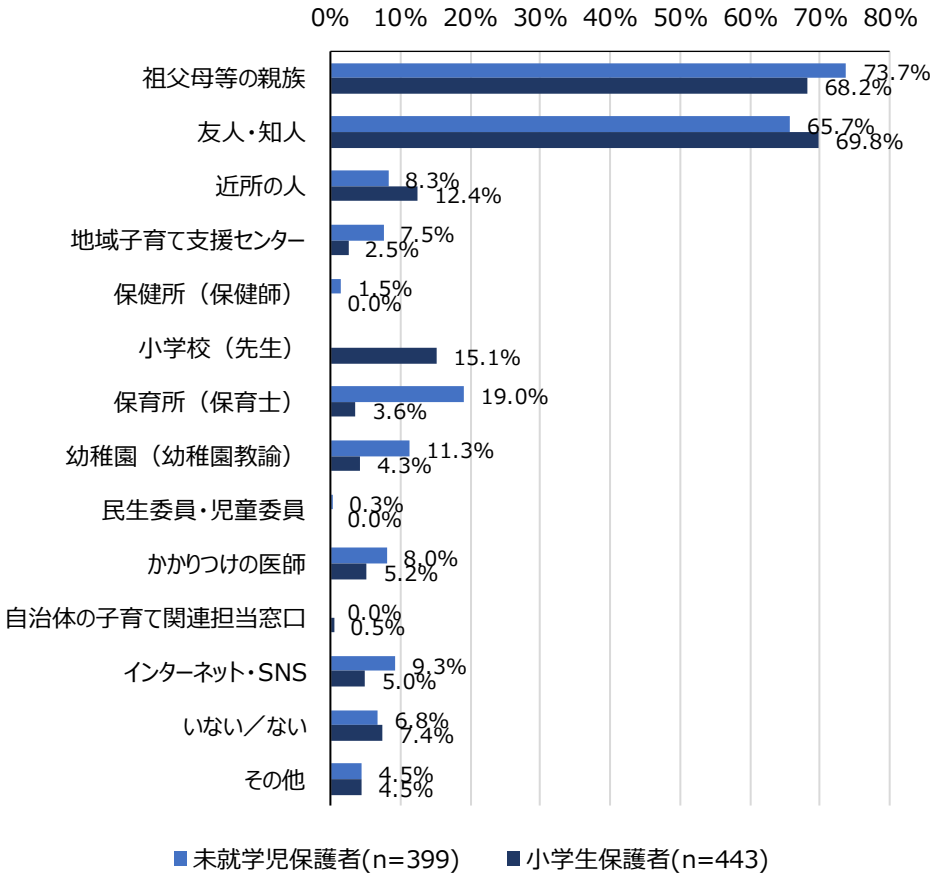
3.3.4. 相談相手

子育てをする上で気軽に相談できる人や場所は、未就学児保護者、小学生保護者ともに、「祖父母等の親族」「友人・知人」と回答した割合が高い。

この他、未就学児保護者では「保育所（保育士）」「幼稚園（幼稚園教諭）」、小学生保護者では「小学校（先生）」が多いが、未就学児では「保育所（保育士）」「幼稚園（幼稚園教諭）」を合わせて 30.3%の保護者がこどもの預け先が相談先になっていると回答している一方で、

小学校に上がると「小学生（先生）」と回答した保護者は 15.1%と半減しており、こどもの就学に伴い保護者が気軽に相談できる先が減少することが伺える。

図表 3-9　相談相手



3.4.　精神的なストレスの状況

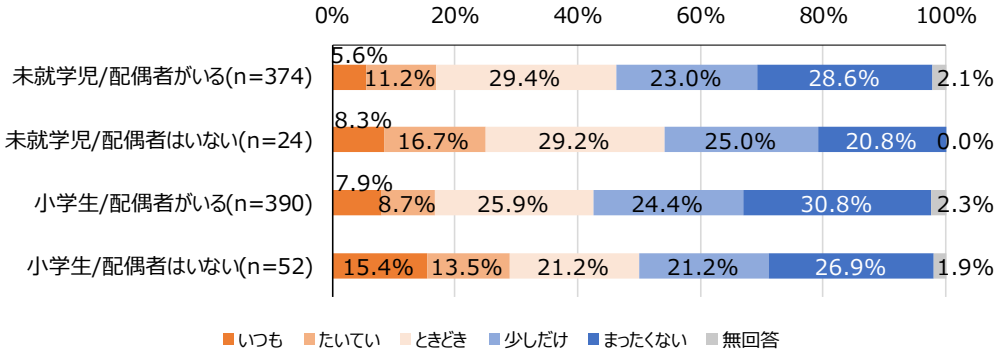
アンケートでは、保護者の精神的なストレスの状況に関して、この１か月の気持ちが「神経過敏に感じた」「絶望的に感じた」「そわそわ、落ち着かなく感じた」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」「何をするのも面倒だと感じた」「自分は価値のない人間だと感じた」の６項目についてどの程度あてはまるかを尋ねた。

６項目のうち、ここでは「神経過敏に感じた」を取り上げ、保護者の暮らしや子育ての状況と、精神的なストレスの状況の関係を分析した。

3.4.1.　配偶関係と神経過敏の状況

未就学児、小学生ともに、配偶者がいないと回答した保護者の方が、配偶者がいると回答した保護者よりも、神経過敏に感じると回答した割合が高い。

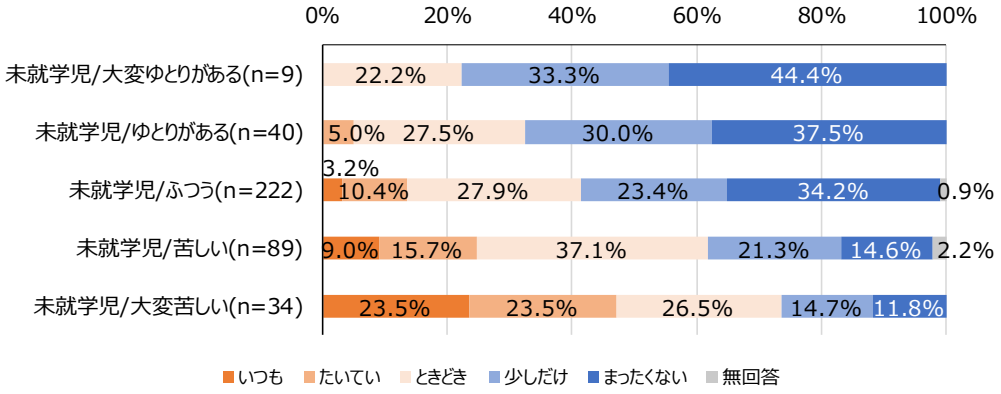
図表 3-10　配偶関係と神経過敏の状況



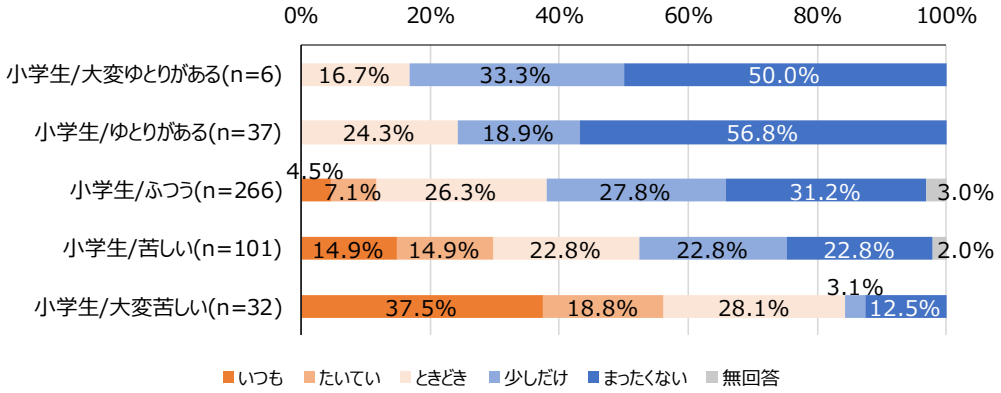
3.4.2. 暮らしの状況と神経過敏の状況

未就学児、小学生ともに、暮らしの状況が苦しいと回答した保護者ほど、神経過敏に感じると回答した割合が高い。

図表 3-11　暮らしの状況と神経過敏の状況（未就学児保護者）



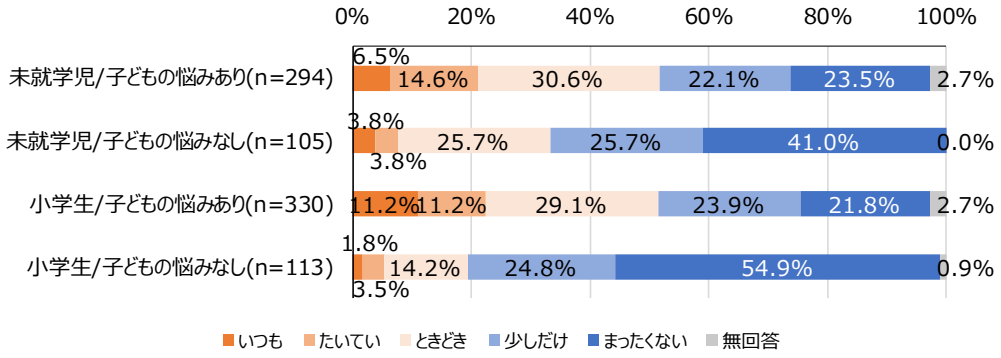
図表 3-12　暮らしの状況と神経過敏の状況（小学生保護者）



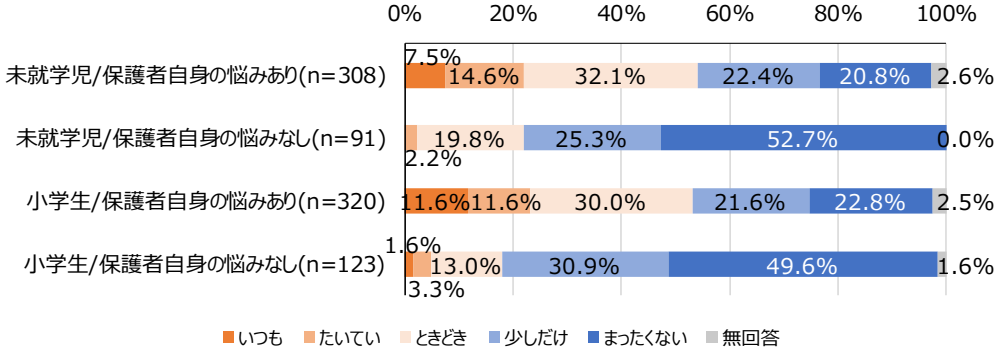
3.4.3. 悩みの有無・相談相手の有無と神経過敏の状況

未就学児保護者、小学生保護者ともに、「子どもの悩みがある」「保護者自身の悩みがある」「相談相手がいない」と回答した人は、そうでない人と比較して、神経過敏に感じると回答した割合が高い。[3]

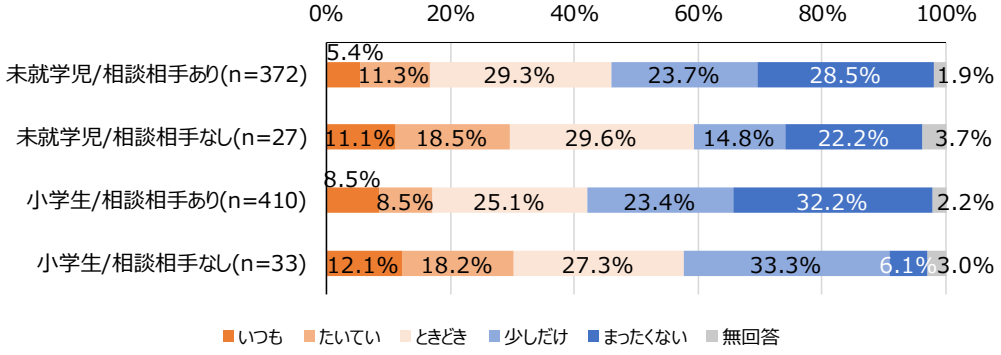
図表 3-13　子どもの悩みの有無と神経過敏の状況



図表 3-14　保護者自身の悩みの有無と神経過敏の状況



図表 3-15　相談相手の有無と神経過敏の状況

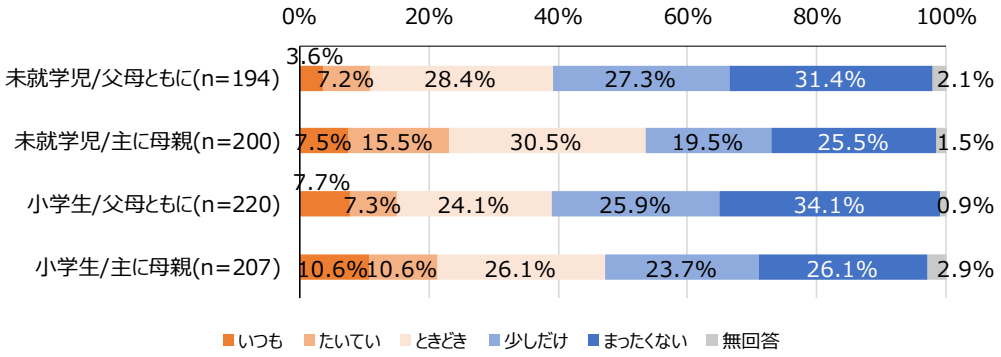


[3] 悩みの有無は、悩みの内容を複数選択で尋ねた設問で「特にない」を選択した人を「悩みなし」、それ以外を「悩みあり」と分類した。相談相手の有無は、相談できる相手や場所を複数選択で尋ねた設問で「いない／ない」を選択した人を「相談相手なし」、それ以外を「相談あり」と分類した。

3.4.4. 主に育児をしている人と神経過敏の状況

未就学児、小学生ともに、父母ともに育児をしている家庭の保護者の方が、主に母親が育児をしている家庭の保護者よりも、神経過敏に感じると回答した割合が低い。（なお、回答者の約９割が母親である。また、未就学児、小学生ともに、「主に父親」、「主に祖父母」と回答した保護者はいずれも 10 人に満たず、神経過敏の状況との関係について十分な考察ができないため、ここでは省略する。）

図表 3-16　主に育児をしている人と神経過敏の状況



4. アンケート調査結果に関する考察

4.1. 古河市のこどもの状況について

小学５年生、中学２年生、高校２年生を対象に、古河市のこどもの家庭環境、生活状況、悩みや困りごと・相談相手の状況、学習・進路希望の状況、居場所の状況について概観するとともに、自己認識について分析を行った。

自己認識のうち一部の項目で、古河市のこどもは全国（内閣府実施の調査）と比較して肯定的な回答が低い傾向が見られたが、全国との比較においては、アンケートの回答者層に差異がある可能性に留意が必要である。具体的には、国の調査は無作為抽出により行われており、回答者は当該年齢のこどもを代表していると考えられる。他方、本アンケートは対象とした学年の児童・生徒の全数調査であるものの、学校経由で通知文を配布し、回答を依頼しており、学校により具体的な実施方法が異なっている。たとえば一部の学校では授業の一環としてアンケートに回答する時間が設けられ、対象者のほぼ全員が回答しているが、通知文の配布以上に積極的な働きかけを行っていない学校もある。このような場合、悩みや困りごと等を抱えていたり、訴えたいことがある児童・生徒に回答者が一定程度偏ることが予想される。従って、本アンケートは国の調査と比較して、相対的に肯定感の低い自己認識を持つ児童・生徒による回答が多く含まれている可能性がある。以上の点に留意するとしても、本件については、こども施策を推進する古河市のみならず、教育や保育等を通じてこどもと関わる大人や保護者は十分に認識しておく必要がある。

自己認識のうち、自己肯定感（「今の自分が好き」についてどの程度あてはまるか）を分析したところ、悩みや困りごとを有する児童・生徒や、悩みや困りごとを相談できる相手がいないと回答した児童・生徒ほど、自己肯定感が低い傾向がみられた。悩みや困りごとに関しては、年齢が低いほど、相談することが恥ずかしかったり、うまく話せないのではないかという不安がハードルとなり、誰にも相談できずに抱え込んでいる状況が見受けられた。また、学校の授業の理解度が低い児童・生徒も自己肯定感が低くなっており、学習面でのつまずきが悩みや困りごとにつながったり、自己認識にネガティブな影響を与えている可能性がある。また、学校の授業の理解度と家庭等での自己学習の習慣には関連が見られ、学習面の課題を抱える児童・生徒は、授業以外に自分で勉強することが難しい状況が伺える。さらに、内閣府（現在はこども家庭庁）の「子供・若者インデックスボード」においても同様の傾向が指摘されているとおり、自己肯定感が低い児童・生徒ほど、ほっとできる居場所の数が少ない傾向が見られた。

以上を踏まえると、古河市のこどもの自己肯定感を高める観点からは、「相談」を目的とした場や機会の提供にとどまらず、日常的な会話が気軽にできる相手や環境（＝居場所）の多様化を図ることに加え、学習面の課題を抱える児童・生徒への学習支援を通じて悩みや困りごとを有する児童・生徒にはその解消に向けたサポートを充実すること等が有効な取組になると考えられる。

4.2. 古河市のこどもの保護者の状況について

無作為に抽出した未就学児保護者、小学生保護者を対象に、家庭環境、生活の状況、子育ての状況を概観するとともに、精神的なストレスの状況について、アンケートで尋ねた６項目のうち「神経過敏に感じた」を取り上げて分析を行った。

精神過敏の状況は、配偶関係や暮らしの状況と相関関係が見られ、ひとり親家庭や経済的に困難を抱えている家庭等、困難を抱えやすい家庭ほど、保護者がストレスを抱えていることが伺える。また、神経過敏の状況は悩みや相談相手の有無とも関連しており、こども自身と同様に、悩みを抱えている保護者や相談相手がいない保護者ほど、ストレスを抱えていた。さらに、父母ともに育児をしている家庭の保護者の方が、主に母親が育児をしている家庭の保護者よりも精神的なストレスが少ない点は注目に値する。本アンケート回答者の約９割が母親であることを踏まえれば、母親から見て、「主に育児をしている人」と認識できる程度に父親が育児を担っていることが、母親自身が感じるストレスの低さにつながっているものと予想される。

こども自身のアンケートにおいても、ほっとできる居場所の筆頭が「自分の家」であったり、「父母」が主な相談相手となっていたり、低年齢では「家の人に教えてもらって勉強する」児童・生徒が多かったりするように、こどもにとって保護者の存在は比類なく大きく、保護者が精神的なストレスを感じている状況は、直接、または間接にこどもの生活や学習、居場所、ひいては自己認識にも好ましくない影響を及ぼすものと考えられる。このことから、こどもに対する取組のみなら、保護者に対しても気軽に相談できる機会の確保や、困難を抱えている保護者への支援、父親による育児に対する啓発等が今後一層求められる。

4.3. 今後のこども施策に向けて

こども基本法において「全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され」ることが明記されたことを受け、その後策定された「こども大綱」において、「こども・若者の意見表明」がこども施策の推進にあたり必要な事項として掲げられた。今回実施したこども自身へのアンケートもこの一環として行ったものである。

本アンケートにより把握した古河市のこども及び保護者の状況は、こども施策に携わる庁内外の関係者とも共有し、今後の古河市こども計画の策定や居場所に関する PFS/SIB 事業の検討において活用していく予定である。（なお、こども施策の推進にあたっては、本アンケートに留まらず今後も継続的にこども・若者の意見聴取を行うことを計画している。）

添付資料

こども自身用アンケート項目一覧

No	設問	対象		
		小５	中２	高２
1	通知文に書いてある【ID】を選んでください。	○	○	○
2	お住まいの場所について教えてください。		○	○
3	通っている学校の種類を１つ選んでください。	○	○	○
4	同居している家族をすべて選んでください。	○	○	○
5	日本語以外を日常生活で使用していますか。	○	○	○
6	週にどれくらい食事をしていますか。	○	○	○
7	ひとりでご飯を食べる日はどれくらいありますか。	○	○	○
8	あなたはふだん（月～金曜日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。	○	○	○
9	週にどのくらい、お風呂（シャワーのみも含む）に入りますか。	○	○	○
10	１日に何回歯みがきをしますか。	○	○	○
11	学校以外で、自分のために使える時間（宿題やゲームをする時間など）はありますか。	○	○	○
12	欲しいものがあった場合、どうしますか。			○
13	アルバイトをしたことがありますか。			○
14	次のうち、家にないものはありますか。	○	○	○
15	一番仲の良い友だちは誰ですか。	○	○	○
16	悩んでいることや困っていることはありますか。	○	○	○
17	悩んでいることや困っていることを相談できる相手はいますか。	○	○	○
18	学校の授業で分からないことがありますか。	○	○	○
19	学校の授業以外でどのように勉強をしていますか。	○	○	○
20	学校の部活動に参加していますか。		○	○
21	将来、どの段階まで進学したいと考えていますか。		○	○
22	その理由について、あてはまるものをすべて選んでください。		○	○
23	平日の放課後、誰と過ごすことが多いですか。	○	○	○
24	平日の放課後、どこで過ごしますか。	○	○	○
25	Q24 の中でほっとできる居場所はどこですか。	○	○	○
26	以下のような居場所があれば使ってみたいと思いますか。	○	○	○
27	あなた自身について、次のことがどれくらいあてはまりますか。	○	○	○
28	これが最後の質問です。「こども基本法」を知っていますか。	○	○	○
29	困っていることなど、伝えたいことがあれば自由に記入してください。	○	○	○

No	設問	対象		
		小５	中２	高２
30	古河市にお願いしたいことなど、伝えたいことがあれば自由に記入してください。	○	○	○

※一部の設問では、年代により質問文の表現（漢字・ひらがな等）が異なる。

保護者用アンケート項目一覧

No	設問	対象	
		未就学	小学生
1	お住まいの地区を小学校区でお答えください。	○	○
2	宛名のお子さんの生年月日をご記入ください。	○	○
3	宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。	○	○
4	この調査票にご回答いただく方はどなたですか。	○	○
5	この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。	○	○
6	宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。	○	○
7	日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。	○	○
8	子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか。	○	○
9	お子さんの保護者について、現在のお仕事の状況（自営業、家族従事者含む）を伺います。	○	○
10	平日どのような教育・保育事業を利用していますか。	○	
11	現在利用している、いないにかかわらず、平日の幼児教育・保育の事業として、今後「定期的に」利用したいと考える事業すべてを選択してください。	○	
12	現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか。	○	
13	地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。	○	
14	土曜日と日曜日・祝日に、定期的な幼児教育・保育の事業の利用希望はありますか。	○	
15	「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の幼児教育・保育の事業の利用を希望しますか。	○	
16	この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。	○	
17	日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の仕事等の目的で不定期に利用している事業はありますか。	○	
18	私用、親の通院、不定期の仕事等の目的で、年間何日くらい事業を利用したいと思いますか。	○	

No	設問	対象	
		未就学	小学生
19	保護者の用事により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。	○	○
20	小学校低学年（１～３年生）のうちは、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。	○	○
21	小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。	○	○
22	「放課後児童クラブ（学童保育）」を選択した方にうかがいます。土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。	○	
23	宛名のお子さんは、現在放課後児童クラブを利用していますか。		○
24	この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガのため、小学校に通うことができず、特別な対応をとる必要がありましたか。		○
25	病気やけがで、学校を休まなければならなかった時に、この１年間に行った対処方法として当てはまるものすべてを選択してください。		○
26	宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。	○	
27	お子さんの親が最後に卒業した学校を教えてください。	○	○
28	あなたは現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。	○	○
29	経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。	○	○
30	この１か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。	○	○
31	子育てに関して悩んでいることや気になることはありますか。	○	○
32	お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について星の数を指定してください。	○	○
33	最後に古河市の子育て支援全般について、あなたの声をお聞かせください。	○	○